

## 歌を楽しむ

和田 宏

歌の楽しみ方は色々ある、小学生時代の先生に褒められた歌は今でも時々思い出す、若いころ気分が良ければ口ずさんでいた流行歌は歌詞がすぐ出てくる、しかし耳だけで覚えたものは間違いもある、要注意。昭和50年代からはカラオケが流行して、装置の技術的な進歩と相まって一時代を画したがy o u t u b e等の登場で楽しみ方が多様化した。そんな中で小生の楽しみは、デイケアや敬老会の慰問と、ダンシングパーティーのカラオケタイム、である、

振り返ってみると、子供のころの記憶では父が休日に絵を描きながら口ずさんでいるのをよく聞いた、「赤壁の戦い」は聞き覚えで歌えるようになったほどである（吉川英治の三国志が出典と知ったのは高校時代）、在郷軍人の小尉であった父にふさわしい歌でした、ところが、終戦の直後、父は聞いたことのなかったレコードをどこからか出してきて聴きはじめた、あきれたボーイズ（川田 晴久、坊屋三郎、益田喜頓）の歌やj a z zである、なんと軽快な歌流行歌だろうと感じた。

小学校6年の学芸会は、担任の先生が意欲的に取り組んで「山鳩」の輪唱（3部）に取り組んだ、生徒の並び方を工夫して「音響さん」が出した結論は、「高音は和田君一人」、でした、まだボーイソプラノだったのでしょ。

高校の選択科目は美術で、音楽は女の子の嗜みだと思っていた、大学一年のバス旅行では、車中「のど自慢」がありました、カラオケなしの時代です、前奏、間奏もラランランと声を出すのが普通でした、工学部ですから男ばかり、マイクが回ってきて歌ったのは藤山一郎の「丘は花盛り」、ところが、一番を終わってラランランランと間奏を入れているとあちこちから拍手の波が起こった、一曲終わってからいただく御苦労さんの拍手ではない、何かが良かったのである、これは親から遺伝した歌DNAのおかげだと思う。

しかし20代以降はバイク（自動車部のバイク、ミシマ150ccに感動した）とJ a z zが好きになって流行歌は上品だとは思えなくなった、

父親のバイク談には陸王のサイドカーが登場する、満鉄の撫順炭坑に機械技師として勤務していた昭和15年、少し離れた縦鉦に出かけたところ帰りが遅くなって、街灯などある筈もない漆黒の闇をサイドカーで爆走、ライダーは悪路と格闘、パッセンジャーは安全装置を外したピストルを構えている、真っ直ぐな鉄道と並走するダートロード、高粱畑は収穫直前で身の丈以上に育ってゲリラが活動しやすい条件が整っている、緊張感は最高度、突然現れたクランク路に対応しようとしたが、操縦を誤ってサイドカーは畑の中に転倒、エンジンは始動できたがピストルが見つからない、畑を這いまわって発見するまでの心細さを忘れられなかったと。

我らがバンドはセブテットである8人目が現れては消えていく、メンバーの高齢化も進んでいる、忘れてはいけない、女性のドラマーはピカピカの平成生まれです。毎月練習し

でデイケヤーの慰問に出かける、バンド演奏と歌で約一時間、

新しい歌は好いが難しい上に慰問には向かない、矢沢永吉の「Up to you」や鈴木雅之―菊池桃子の「恋のフライトタイム12PM」等を思い浮かべてください、しかし難しい歌も歌えないと能力が衰えるのではないかと心配で覚えてみる、

また昭和30年代の懐かしいが難しく歌えなかった歌を練習することもある、例えばPaul Ankaの「Diana」やBill Haleyの「Rock around the clock」、特に後者はテンポが速いし発音もなかなか難しい、楽譜とYouTube両方に助けられるが、何故か英語の楽譜には一〜二ヶ所のミスプリントが付き物、練習の途中で発見して直すのは自信に繋がる。発音の難しさは沢山ある、リエゾンしかり、舌の位置も上顎に当たっているlとn、離れているr、上歯に当たっているth、しっかり歌えば、それらしく聞こえる。仲間内のダンシングパーティーなら珍しさが多めの拍手を呼ぶ。

慰問するデイケアセンターの、聴衆はご高齢だから、近江俊郎の「湯の町エレジー」三浦光一の「東京の人」津村謙の「上海帰りのリル」や林伊佐雄の「ダンスパーティーの夜」等を歌っていると聴衆の唇が動いている、心が通い合っているようだ。

しかし自分の好みを見せることにして昭和30年代の、和田弘とマヒナスターズの「泣かないで」鶴田浩二の「好きだった」や黒沢明とロスプリモスの「ラブユー東京」等を選ぶこともある。

デイケヤーにはテレビ、ラジオ、DVDシアター、カラオケも揃っているから今更流行歌でもあるまいとの意見もあるが、グループでやってきて、いささか怪しげだが歌ったり踊ったりすれば時間つぶしには良いのだろう、施設からのリクエストは続く。

単調さを感じさせないように、日本舞踊、手品、等とのコラボレーションも企画する、

歌うからにはボランティアとはいえ身なりも整えて姿勢にも気をつけているが年齢は観衆と大差ない、最後には握手をして別れを惜しむ、お互いに少しは楽しめたら可としている。

ツイッターとかフェイスブックを楽しんでおられますか？拙文は大変我が儘な長いツイートでした、お許し下さい。